小学校

光村ポケット英語

Here We Go!

実践紹介

6年 You can do it! 3 English Festivalを開こう。

一人一人が主役の言語活動のために

豊見城市立ゆたか小学校
奥平 明香先生

LINE公式アカウント友だち募集中!
授業づくりに役立つ情報を、いち早くお届けします。

光村図書

教授用資料 本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

6年 You can do it! 3 English Festivalを開こう。 実践アイデア

一人一人が主役の言語活動のために



豊見城市立ゆたか小学校
教諭
奥平（おくひら） 明香（さやか） 先生

年度末には、1年間の学びの集大成として、「外国語科の学習を通してできるようになったこと」をテーマに、全員が主役のパフォーマンス大会を行いたいと考えていました。そこで、6年最後の単元であるMy Best Memory（Unit 8）の第1時に一人一人が考えた単元目標を、AIを使って要約してみたところ、「共有と共感」「思い出を伝え合う」といった共通要素が取り出されました。子どもたちが、「卒業前に思い出を伝え合いたい」と考えていることがわかったので、Goalの言語活動と、You can do it! 3の言語活動「English Festivalを開こう。」を結合した、「思い出シェア会」を開くことにしました。体育館を貸し切って行う、2時間の活動です。

今回は、発表に向けた準備や、本番での様子をお届けします。

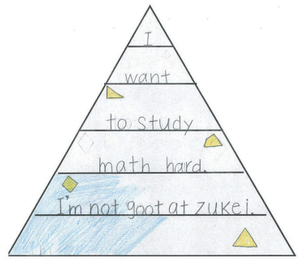
準備① 下地づくり

多様な表現への気づきを

教科書の活動は「話すこと（発表）」がメインでしたが、「思い出シェア会」では、自分らしさが光るよう「それぞれの思い出を自分（たち）らしく伝えるられる方法でよい」とし、自由度を上げました。

多くの子どもはCanvaでのプレゼンをしようとしていましたが、中には、書いて伝えようとする子もいました。書くといっても、英語の絵本や漫画を作ったり、迷路の中に英語の文を書いたりと多様でした。

私は、普段から「書くこと」を無機質にしないよう工夫してきました。例えば、直線上だけでなく、三角形や渦巻きの中に書いたり、いつもと違った大きさの紙に書いたりすると、それだけで書き手も読み手も一味違った感覚になります。これは、図画工作の時間に、画用紙のサイズや形を変えると、苦手意識のある子どものハードルが下がった経験からアイデアを得たものです。さまざまなキャンバスに文字を書く活動を意図的に取り入れ、読み合う楽しさや多彩な表現に気づけるようにしています。



実際の制作物。自由な形で楽しみながら書いています。

誰もが発話したくなるように

次に、全員参加可能な発話者育成の工夫です。私は教室内に、やり取りのきっかけになることをねらって、子どもが発話に登場させたくなるようなご当地マスコットぬいぐるみを用意しています。

ぬいぐるみは、場面緘黙の子どもたちの指差し会話にも使えます。ある場面緘黙の子どもは、ジンベエザメのぬいぐるみを指さしながらであれば、“I went to *Churaumi* aquarium. I saw Jinbei-shark. It was big.” と言えるようになりました。

さらに、授業の導入で使用した絵カードを廊下や共有スペースに掲示し、いつでも目につくようにするといった環境づくりも心がけています。

準備② 教科書内容の定着

自分自身の発話ができるように

発話内容は、自分らしさを大切にしてほしいものです。そのために、まずは、教科書で提示されている基本的な表現や語句を、「やり取りを通して」何度も大切に聞いたり、話したりしながら心慣れ・口慣れをしていくことが重要です。

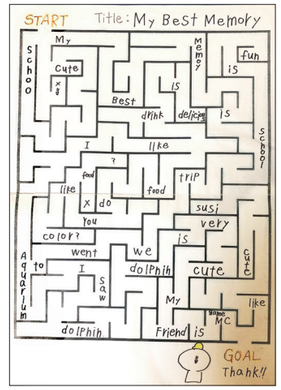
そのうえで、教科書の内容を子ども自身の発話につなげていく工夫です。ここで、リスニング問題が活用できます。まずは、子どもたちが頭を働かせながら音声情報を得られるよう、私自身が何回も聞いて、登場人物の発話の特徴やよさを捉えます。そして、「どのような発問をすれば、子どもたちが発話の特徴やよさに気づき、自身の発話に取り入れられるか」を考えて授業構想を立てます。聞いた情報を整理・分析し、どんなことを伝えたいのかについて自己内対話する思考の過程は、伝えたいことを自分なりの意図をもって伝えるために必要で、母語でも外国語でも共通して大切なことだと考えています。

本番での様子

一人一人がいちばん輝く姿を共有

発表会当日には、思い思いの多様な表現方法を見ることができました。前述のさまざまなアイデアの他、英語の歌詞を作って生成AIで作った曲にのせ、自分たちで振り付けしたダンスを披露するグループもありました。

当日は、進学先となる中学校の英語科の教師とALTも招待しました。一人一人がいちばん輝く姿を共有できたことは、子どもたちの学びを中学校につなぐことにもなりました。ぜひ、全国の学校で、今回の「思い出シェア会」（English Festival）のような、子どもたち全員が主役のステージを用意してあげることを提案したいです。



たどっていくと、小学校での思い出が完成する迷路。

おわりに

6年生だけでなく他学年でも、「思い出シェア会」と同様の機会を設けました。発表会でベストパフォーマンスを発揮するために、外国語科以外の時間でも、アドバイスやアイデアを求められたと、各学年の先生方から聞きました。子どもたちは外国語初学者ではありますが、じっくりじわじわ力とをつけていきます。今後も、「子どもたちは普段の授業で力をつけている」ことを教師自身が信じると共に、「今ならできる」と子ども自身が確信したタイミングで実力を発揮できるよう、今回のような機会を子どもたちといっしょに作っていきたいと考えています。

※本ページに掲載している作例は、実際の児童作品のため、スペルや文法の誤りが含まれております。ご了承ください。

次号予告

小学校外国語科での主体的な学び

自律的な学習者を育成するために

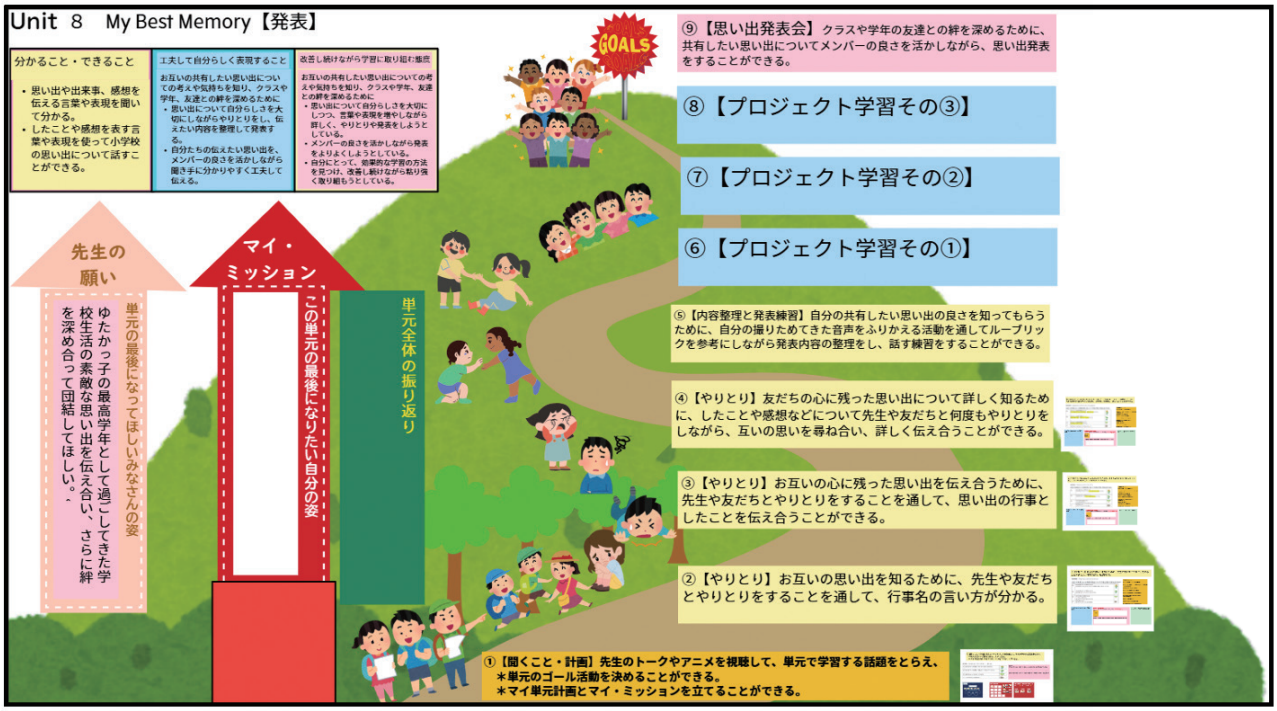
令和 6 年 12 月 25 日に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方」が中央教育審議会に諮問され、次期学習指導要領の改訂に向けて、これからの時代にふさわしい教育の在り方が議論されています。議論を聞いていると、多様な子供たちを包摂するための「みんないっしょ」からの脱却、子ども一人一人に合った学び、そのための「学び方」を知っている自律的な学習者の育成などが求められていることがわかります。

自律的な学習者の育成は、学習初学者を 6 年間という長いスパンで預かる私たち小学校教師全員の願いでもあるでしょう。この連載では、全教科・領域等で育成することを大前提としつつ、小学校外国語科ではどのような教師による支援が求められるか、実際に、どのような子どもたちの姿を引き出すことができたのかについて、現時点での様子をお伝えしていきたいと思います。

e-portfolio の作成

私は、下図のような単元計画兼振り返りシート（e-portfolio）を活用しています。音声や動画等のデジタル記録が一元化されたものです。これを使いながら、単元の最後になりたい自分の姿を考え、「マイ・ミッション」を立てる経験を積むことで、少しずつ英語話者（表現者）として目ざす自分像が明確になっていきます。

次号では、自律学習の「見通す」「実行する」「振り返る」の 3 つの学習段階のうち、「見通す」について、詳しくお伝えする予定です。特に、e-portfolio の活用方法や、作成時の工夫、自律的な学習者を育成をするための指導観などについて、お伝えしたいと思います。



6 年 Unit 8 My Best Memory で作成した e-portfolio

文：豊見城市立ゆたか小学校　教諭　奥平（おくひら） 明香（さやか） 先生

光村図書

教授用資料
発行者　吉田直樹
発行所　光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話:03-3493-2111(代表)
デザイン なるせよぞら

光村図書ウェブサイト
光村図書